

問1 弥生文化を形成した「弥生人」の成り立ちや、その文化の特徴について説明したものとして正しいものはどれですか。 (2022年 愛媛県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 大陸からの渡来人と在来の人々が混ざり合うことで形成され、稲作を基礎とした定住社会を発展させた。 | 2. 武士が政治の実権を握り、幕府という組織を通じて全国の守護や地頭を統制する封建的な社会を構築した。 | 3. 遣隋使や遣唐使を通じて大陸の律令制度を積極的に学び、天皇を中心とした中央集権的な法治国家を築いた。 | 4. 縄文土器を使用し、弓矢を用いた狩猟や貝塚に見られる採集を中心とした、身分差のない平等な社会を維持した。 |
|--|---|--|--|

問2 福岡県の志賀島で発見された、金で作られた「漢委奴国王」の印（金印）が示している歴史的事実として適切なものを選んでください。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---------------------------------------|
| 1. 邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から親魏倭王の称号と銅鏡を授けられた。 | 2. 倭の奴国の王が中国の漢（後漢）へ使いを送り、皇帝から王の地位を認められた。 | 3. 日本が中国の進んだ制度を取り入れるために、多くの留学生を伴う遣唐使を派遣した。 | 4. 聖徳太子が小野妹子を隋に派遣し、中国と対等な外交関係を築こうとした。 |
|---|--|--|---------------------------------------|

問3 弥生時代に大陸から稲作が伝わると、収穫のための道具として磨製石器の一種が広く使われるようになりました。中央に2つの小さな穴が開いた半月形の形状をしており、稲の穂先のみを摘み取るために使用されたこの道具の名称を選びなさい。 (2024年 秋田県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|--------|--------|---------|
| 1. 鉄鎌 | 2. 石包丁 | 3. 尖頭器 | 4. 磨製石斧 |
|-------|--------|--------|---------|

問4 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、集落の周囲に深い濠（ほり）や土塁を巡らせた「環濠集落」の代表例として知られています。このような大規模な防衛施設を持つ集落が弥生時代に造られるようになった社会的背景として、最も適切な説明はどれか、選びなさい。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|---|--|
| 1. 仏教の伝来にともない、寺院を中心とした聖域を保護する必要が生じたため | 2. 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため | 3. 狩猟や採集の効率を上げるために、獲物となる動物を追い込む囲いが必要だったため | 4. 頻発する大規模な洪水や高潮から、住居や高床倉庫の浸水を防ぐ必要があったため |
|---------------------------------------|---------------------------------------|---|--|

問5 邪馬台国の女王である卑弥呼は、239年に中国の魏へ使節を送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かりました。卑弥呼がこのように中国の王朝と外交関係を結んだ主な政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--------------------------------------|---|
| 1. 魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた狗奴国などに対して自国の優位性を示すため | 2. 朝鮮半島南部にある任那の日本府を維持するために、魏へ軍事支援を要請するため | 3. 魏から金銀などの貴金属を輸入し、国内で独自貨幣の発行を開始するため | 4. 魏で施行されていた律令制度を学び、日本で最初の本格的な法治国家を建設するため |
|---|--|--------------------------------------|---|

問6 弥生時代、稲作が西日本から東日本へと普及して食糧の蓄えができるようになると、各地で土地や水をめぐる争いが起こり、小さな国々が誕生しました。こうした中、倭の奴国の王が中国の王朝へ使いを送った目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 広島県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 土偶を用いた独自の祭祀を中国に認めてもらうことで、大陸での宗教的な影響力を拡大しようとした。 | 2. 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。 | 3. 鉄製農具や須臾器の製作技術を独占し、縄文時代から続く狩猟・採集の生活をより豊かにしようとした。 | 4. 巨大な前方後円墳を築造するための最新技術を導入し、日本列島全体の統一を早急に成し遂げようとした。 |
|---|--|--|---|

問7 弥生時代に使用された土器の一般的な特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2026年 北海道公立入試 類似)

- | | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|--|----------------------------------|
| 1. 表面に縄目の文様が全体に施されており、厚手で黒褐色をしている。 | 2. 呪術的な目的から、表面に激しい隆起や複雑な装飾が施されている。 | 3. ろくろを使用せずに低温で焼かれたため、形が歪んでおり非常に厚くて脆い。 | 4. 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。 |
|------------------------------------|------------------------------------|--|----------------------------------|

問8 弥生時代から江戸時代までの外交上の主なできごとを整理した記録において、3世紀に邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった目的や背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 富山県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸国との関係を有利に進めるため。 | 2. 朝鮮半島南部での鉄資源の確保を目的として、中国の王朝と軍事同盟を結び、高句麗や百済に対抗するため。 | 3. 「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かることで、北九州の奴国を中心とした小国の連合体を統一し、女王の地位を証明するため。 | 4. 先進的な仏教文化や律令制度を日本に導入し、天皇を中心とした中央集権国家の基盤を早急に固めるため。 |
|--|--|---|---|

問9 福岡県などの遺跡から出土した、中央につまみがあり周囲に精密な文様が施された円形の銅鏡について、この道具が当時の社会で果たしていた役割として正しく述べているものはどれですか。 (2026年 北海道公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------------------------------|--|---------------------------------------|--|
| 1. 文字を刻んで記録を残すための記録媒体として、役所などで管理されていた | 2. 光を反射させる性質を利用し、強力な権威を持つ者が自らの地位を象徴する宝物とした | 3. 身分を問わず、弥生時代の全ての人が護身用の盾として日常的に持ち歩いた | 4. 非常に硬い性質を持っていたため、山林を切り拓くための斧として全国で普及した |
|---------------------------------------|--|---------------------------------------|--|

問10 中国の歴史書とそこに記された倭（日本）に関する記述の組み合わせについて、記述内容から判断して「魏志」倭人伝の説明として最も適切なものを選びなさい。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 倭の奴国の王が後漢の皇帝から金印を授かり、のちに倭国全体で大きな乱れが起きたとする記述 | 2. 倭人が100余りの国に分かれ、朝鮮半島の楽浪郡に定期的に使者を送っていたとする記述 | 3. 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述 | 4. 倭王が中国の皇帝に対し、自らを「日出づる処の天子」と称する国書を送ったとする記述 |
|--|--|---|---|

問11 大陸からの技術伝来によって起きた、弥生時代の道具の変化に関する説明として正しいものはどれですか。 (2018年 奈良県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 朝鮮半島から伝わった技術により、打製石器を加工して鉄のように鋭くする技法が確立した。 | 2. 中国から伝わった鉄を使い、日本独自の文化である縄文土器の文様がより複雑になった。 | 3. 青銅が農具の主材料となり、それまで使われていた木製農具は全く使われなくなった。 | 4. 石器から金属器への移行が進み、実用的な道具には主に鉄が用いられるようになった。 |
|---|---|--|--|

問12 1世紀半ば、奴国の王が中国の王朝（漢）に使者を送り、金印を授けられたという出来事について、その当時の国際関係のあり方や目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2026年 山口県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ることで、自身の王としての地位を認めさせ、国内での権威を高めようとした | 2. 対等な立場での外交を求める国書を送り、大陸の進んだ律令制度を日本へ速やかに導入することを目的とした | 3. 仏教を日本に広めるため、優れた経典や仏像を日本へ持ち帰る許可を皇帝に求める使節を派遣した | 4. 朝鮮半島での軍事的な優位を確保するため、中国の王朝と軍事同盟を結び、援軍を派遣してもらう約束を取り付けた |
|---|--|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大陸からの渡来人と在来の人々が混ざり合うことで形成され、稲作を基礎とした定住社会を発展させた。	弥生時代は、ユーラシア大陸から九州北部などに渡来した人々と、日本列島の在来の人々が交流・混血することで「弥生人」としての特徴が形づくられた時期です。彼らがもたらした稲作技術は、それまでの狩猟・採集中心の生活を大きく変え、計画的な食料生産を可能にしました。これにより人口が増加し、階級社会や国家の形成へとつながる弥生文化が確立されました。
問2	答え 2 倭の奴国の王が中国の漢（後漢）へ使いを送り、皇帝から王の地位を認められた。	中国の歴史書『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が光武帝に使いを送り、印綬を授かったという記録があります。志賀島で見つかった金印はこの記述を裏付けけるものであり、当時の日本の小国の王が、中国の皇帝に貢ぎ物を送ることで、自分の支配権を公認してもらおうとした国際関係を示しています。
問3	答え 2 石包丁	弥生時代に稲作が本格化する中で、収穫用具として石包丁が誕生しました。石を磨いて作られた磨製石器で、穴に紐を通して指に固定し、手のひらで包むようにして稲の穂を一つひとつ摘み取る「穂首刈り（ほくびがり）」が行われました。のちの時代に鉄製の鎌が普及するまでは、この石包丁が収穫の主役でした。
問4	答え 2 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため	弥生時代に大陸から本格的な水稻耕作が伝わると、収穫物の余剰を蓄える「富」が生まれ、それを奪い合う争いが始まりました。吉野ヶ里遺跡に見られる深い濠や逆茂木（さかもぎ）、物見やぐらなどの施設は、敵の侵入を防ぎ、共同体の財産や命を守るために発達した軍事・防衛的な工夫です。
問5	答え 1 魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた狗奴国などに対して自国の優位性を示すため	邪馬台国は、南に位置する狗奴国と激しく対立していました。卑弥呼は当時、中国で強大だった魏の皇帝から公式に「倭の王」として認められることで、その権威を背景に国内の統治を固め、対立勢力に対して有利な立場を得ようとしたと考えられています。これは当時の東アジアにおける国際秩序を利用した外交戦略でした。
問6	答え 2 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。	弥生時代の日本では、稲作の普及に伴って貧富の差や対立が生まれ、各地に小国が形成されました。1世紀の57年、倭の奴国の王は中国（後漢）の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられました。これは、当時文明の進んでいた中国の皇帝に認められることで、他の小国に対する優位性を保ち、自らの支配権を強化する狙いがありました。選択肢にある鉄製農具や須恵器の普及、前方後円墳の築造は後の時代の特徴であり、土偶は縄文時代の文化です。
問7	答え 4 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。	弥生土器は、縄文土器に比べて高い温度で焼かれるようになったため、薄くて硬いという特徴を持ちます。縄文土器に見られるような激しい装飾や複雑な文様は少なくなり、機能性を重視したシンプルな作りが特徴です。
問8	答え 1 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸国との関係を有利に進めるため。	当時の倭（日本）では多くの小国が争っていましたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合体をまとめるため、中国の「魏」という大国の威光を利用しました。中国の皇帝から正式に「王」としての称号を授かることは、国内における支配の正当性を高める強力な武器となりました。1世紀の「漢委奴国王」の金印（後漢へ派遣）や、後の時代の仏教伝来、朝鮮半島への出兵とは時代や背景が異なる点を見極める必要があります。
問9	答え 2 光を反射させる性質を利用し、強力な権威を持つ者が自らの地位を象徴する宝物とした	青銅器の一種である銅鏡は、当時の高度な技術によって精密な文様が施されており、その希少性から特定の有力な指導者の持ち物であったと考えられています。このような貴重な金属器を所有し、祭祀などで用いることは、指導者が超自然的な力や大陸とのつながりを持っていることを周囲に示すことになり、その地位の正当性を裏付ける役割を果たしていました。
問10	答え 3 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述	「魏志」倭人伝は、邪馬台国の政治体制や女王卑弥呼の死、そしてその後の大規模な埋葬儀式について具体的に伝えています。他の選択肢について、100余りの国に分かれていたとするのは紀元前1世紀頃の「漢書」地理志、金印の授与や倭国の乱れ（倭国大乱）は1世紀から2世紀頃の様子を記した「後漢書」東夷伝、天子を自称したのは7世紀初頭の「隋書」倭国伝の記述です。
問11	答え 4 石器から金属器への移行が進み、実用的な道具には主に鉄が用いられるようになった。	大陸からの技術伝来により、それまでの石器を中心とした生活から、金属器（鉄器・青銅器）を利用する生活へと変化しました。これを技術革新と呼びます。鉄は非常に実用性が高く、農具や工具、武器として社会を支える基盤となりました。この変化は、食料生産の増加や集落間の争い、さらには社会の階層化にもつながる重要な転換点となりました。
問12	答え 1 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ること、自身の王としての地位を認めさせ、国内での権威を高めようとした	当時の日本（倭）は多くの小国に分かれて争っており、各国の王は、強大な力を持つ中国の皇帝に貢物を捧げる「朝貢」を行いました。それに対して皇帝がその土地の支配権を認める（冊封）ことで、王は自国内や周辺の国々に対して自分の正統性や優位性を誇示しようとした。1世紀の奴国の王による外交も、こうした背景によるものです。